

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-743
研究課題名 周術期患者におけるボルベン輸液6%注の有用性の検討
研究期間 西暦 2015年2月（倫理委員会承認後）～2016年6月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（麻酔記録）
上記材料の採取期間 西暦 2014年9月～2015年1月
意義、目的 手術中の出血や脱水に対し、実臨床では随時採血と輸液・輸血を行い、血中ヘモグロビン濃度測定を行うことで患者状態の評価を行い、適切な血中ヘモグロビン濃度と循環血液量の維持を行う。 出血時に使用可能な輸液製剤には晶質液細胞外液と膠質液細胞外液が存在し、近年 170000 の分子量を持つヒドロキシエチルデンプンを使用した人工膠質液であるボルベン6%輸液が本邦でも発売された。ボルベンは長い海外での臨床使用に加え、本邦でも1年以上使用されている。 ボルベンの循環血液量増量効果やバイタルサインへの影響、有用性について、ボルベンを使用した症例について後ろ向きに抽出して検討する。
方法 ① 過去の当院の電子化された麻酔記録から、ボルベンを使用し、観血的動脈圧測定ラインを挿入した定期手術患者を抽出する。 ② 麻酔記録にデータとして残っている、バイタルサインや術中イベント、術中必要時に採血して得られた血中ヘモグロビン濃度を拾い出す。 ③ 取り出されたデータから、血中ヘモグロビン濃度変化を用いて輸液による循環血液量変化を算出し、バイタルサインへの影響も合わせて検討する。 ④ 他の輸液剤と比較した時のボルベンの有用性を検討する
問い合わせ・苦情等の窓口 研究代表者：外山 裕章（東北大学病院 麻酔科） 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学病院 麻酔科 Tel: 022-717-7321 Fax: 022-717-7325、PHS 5461